

第4項 史跡東半の調査（平成26年度）

1. 調査概要

史跡の東半における地下の遺跡の状況を把握するため、史跡東端部に4ヶ所の試掘坑（TR-1～TR-4トレンチ）、史跡南端部に5ヶ所の試掘坑（TR-5～TR-9トレンチ）を設定した。調査面積は計87㎡である。TR-1～TR-4トレンチ付近は標高12～13mほど、TR-5～TR-9トレンチ付近は標高10～11mほどの畑地である。TR-1～TR-4トレンチは任意の間隔で南北方向に、TR-5～TR-9トレンチは東西方向に設定した。発見された遺構・遺物の時期は、縄文前期中葉期が中心であるが、平安時代の遺構も確認された。

2. 層序

[TR-1～TR-4トレンチ]

- I層：耕作土。
- II層：耕作土（下層）。
- III層：黒色土。黒ボク。
- IV層：暗褐色土。シルト、炭化物少量。
- V層：黒褐色土。シルト、炭化物少量。
- VI層：褐色土。漸移層。
- IX層：明黄褐色土。ローム粘土。地山。

[TR-5～TR-9トレンチ]

- I層：耕作土。
- II層：耕作土（下層）。
- III層：黒褐色土。ローム少量。炭化物中量。
- IV層：灰黄褐色土。ローム質。炭化物少量。
- V層：明黄褐色土。漸移層。
- VI層：橙色土。ローム粘土。地山。

史跡南端部調査地点（TR-5～TR-9トレンチ）の基本層序によれば、III層が縄文中期以後、IV層が縄文前期の年代に相当する。

3. 遺構

史跡東端部のTR-1～TR-4トレンチで計13基、史跡南端部のTR-5～TR-9トレンチで計31基の遺構を検出した。史跡東端部のTR-4トレンチでは長径5m、短径4mほどの楕円形の竪穴建物跡（1号）を検出した。床面は中央部に向かいやや傾斜し、床面を覆う5層上部では帯状の炭化物が出土した。出土遺物から、その年代は縄文前期中葉と考えられる。TR-3トレンチでも大型の遺構（1号）が検出され、竪穴建物跡と推定される。

史跡南端部のTR-5トレンチでは、土坑内（2号）より円筒下層a～b式の土器が出土した。TR-7トレンチでは、縄文前期の竪穴建物跡（2号）とともに、幅1.4m・深さ0.7mほどの平安時代の溝跡（1号）を検出しており、東側のTR-7トレンチでもその続きが確認されている。遺跡の載る台地の南縁辺部に沿って溝跡が東西方向に展開するものと推定される。

4. 遺物

図34は平成26年度の史跡東半の試掘調査で出土した土器をトレンチごとに掲載した。

1・2はTR-4トレンチ1号から出土した縄文時代前期中葉の口縁部土器片である。3・4はTR-7トレンチ、5はTR-9トレンチから出土した縄文時代前期中葉の土器片である。

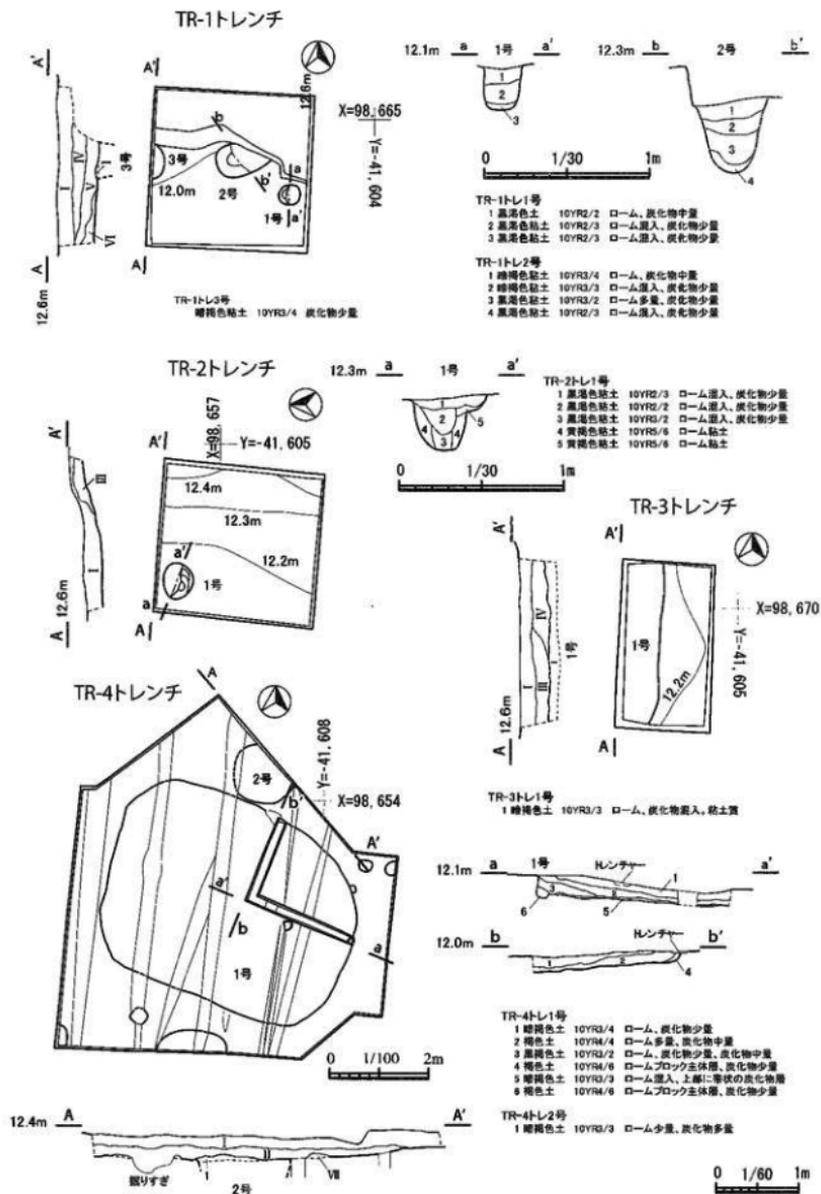
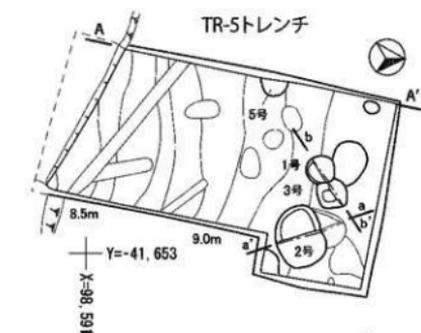
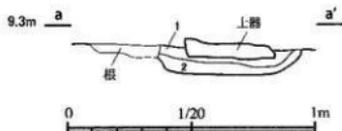
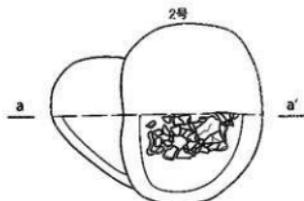


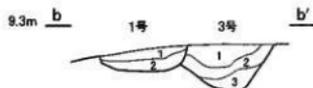
図30 史跡東半調査地点 (TR-1~4トレンチ) 平面図・セクション図



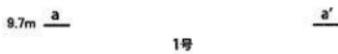
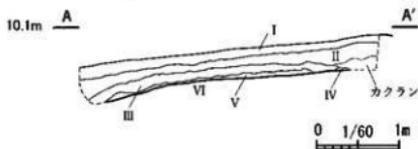
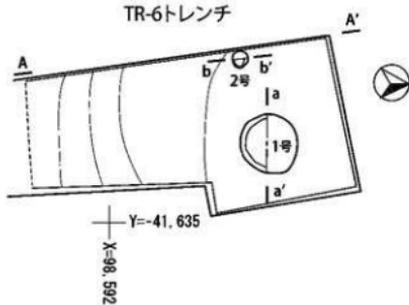
- TR-5-L1号**
 1 黒褐色土 10YR3/2 礫土、炭化物混入、ローム中量、粘土質
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム混入、炭化物少量、粘土質
- TR-5-L3号**
 1 暗褐色土 10YR3/4 ローム、炭化物中量、粘土質
 2 暗褐色土 10YR3/4 ローム・ブロンク混入、炭化物少量、粘土質
 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム多量、炭化物少量、粘土質
- TR-5-L5号**
 1 暗褐色土 10YR3/4 ローム混入、炭化物中量、粘土質



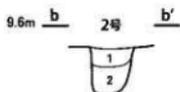
- TR-5-L2号**
 1 暗褐色土 10YR3/4 ローム多量、炭化物中量、粘土質
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム混入、炭化物少量、粘土質



TR-6トレンチ



- TR-6-L1号**
 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム、炭化物中量
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム混入、炭化物少量



- TR-6-L2号**
 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム中量、炭化物少量、粘土質
 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム混入、炭化物少量、粘土質

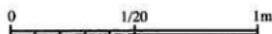


図31 史跡東半調査地点 (TR-5・6トレンチ) 平面図・セクション図

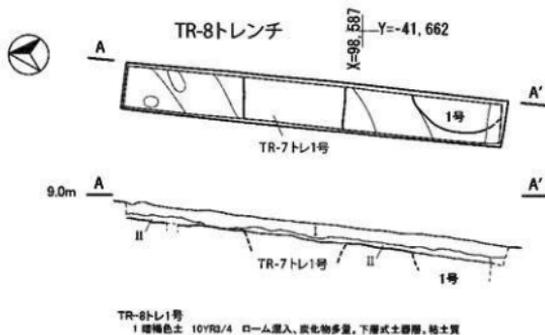
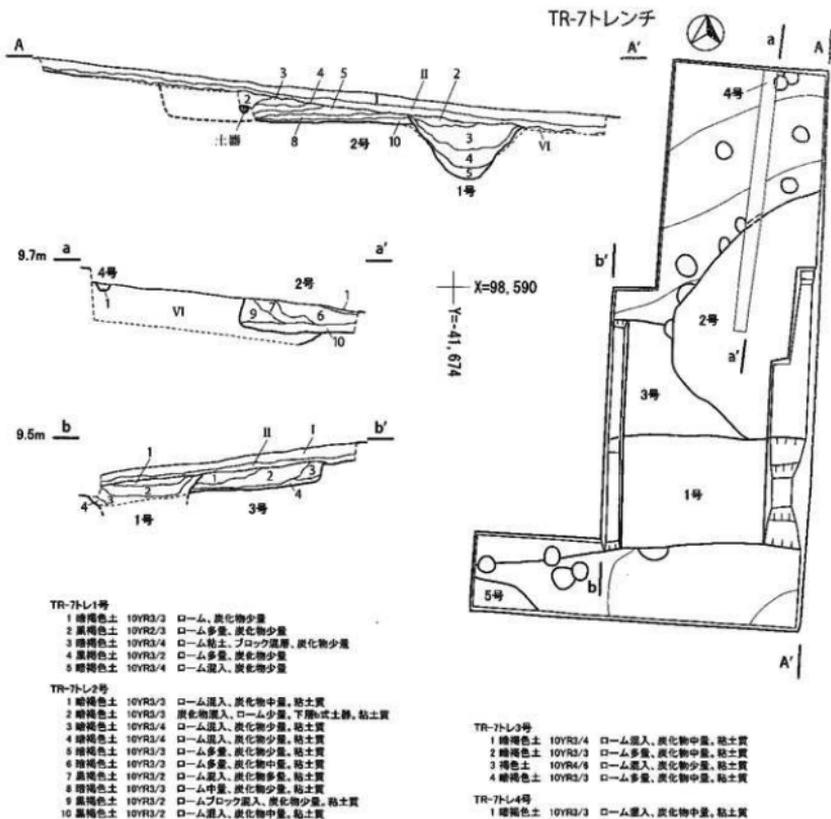


図32 史跡東半調査地点 (TR-7・8トレンチ) 平面図・セクション図

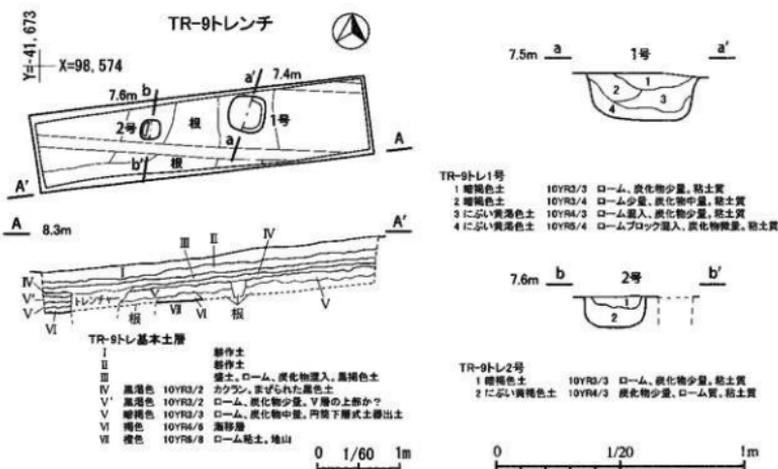


図33 史跡東半調査地点 (TR-9トレンチ) 平面図・セクション図

図35は史跡東半の調査で出土した石器である。

6はTR-4トレンチ竪穴建物跡(1号)から出土した白石であり、両面に磨面とともに顕著な擦痕が観察される。7はTR-5トレンチから出土した磨石である。8はTR-7トレンチから出土した磨石である。9はTR-9トレンチから出土した黒曜石製の石匙である。

表13 史跡東半遺構一覧表

No.	トレンチ	遺構番号	種別	年代
1	TR-1	1号	ピット	縄文
2		2号	土坑	縄文
4	TR-2	1号	土坑	縄文前期
5	TR-3	1号	竪穴建物跡?	縄文
6	TR-4	1号	竪穴建物跡	縄文前期中葉
7		2号	土坑	縄文
14	TR-5	1号	土坑	縄文前期
15		2号	土坑	縄文前期中葉
16		3号	土坑	縄文
18	TR-6	5号	土坑	縄文
21		1号	土坑	縄文
22	TR-7	2号	ピット	縄文
23		1号	溝跡	平安
24	TR-7	2号	竪穴建物跡	縄文前期中葉
25		3号	竪穴建物跡?	縄文
26	TR-8	4号	ピット	縄文
42		1号	土坑	縄文
43	TR-9	1号	土坑	縄文
44		2号	土坑	縄文

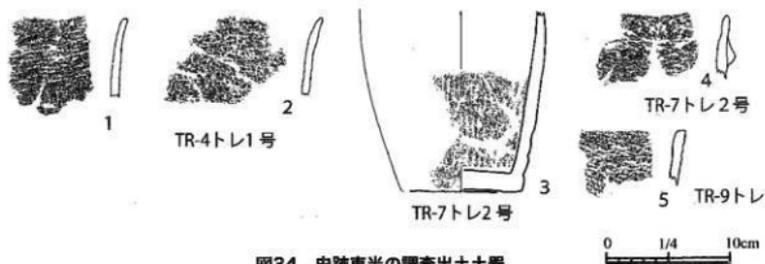


図34 史跡東半の調査出土土器

表14 史跡東半の調査出土土器観察表

番号	種別	器形	部位・形状	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢	口縁	TR-4トレ1号	1層	縄文前期中葉		
2	縄文土器	深鉢	口縁	TR-4トレ1号	1層	縄文前期中葉	円筒下層a~b	
3	縄文土器	深鉢	胴部~底部	TR-7トレ2号	2層	縄文前期中葉	円筒下層a~b	
4	縄文土器	深鉢	口縁	TR-7トレ2号	(南側)上層~ 中層	縄文前期中葉	円筒下層a~b	
5	縄文土器	深鉢	口縁	TR-9トレ	トレンチヤー	縄文前期中葉		

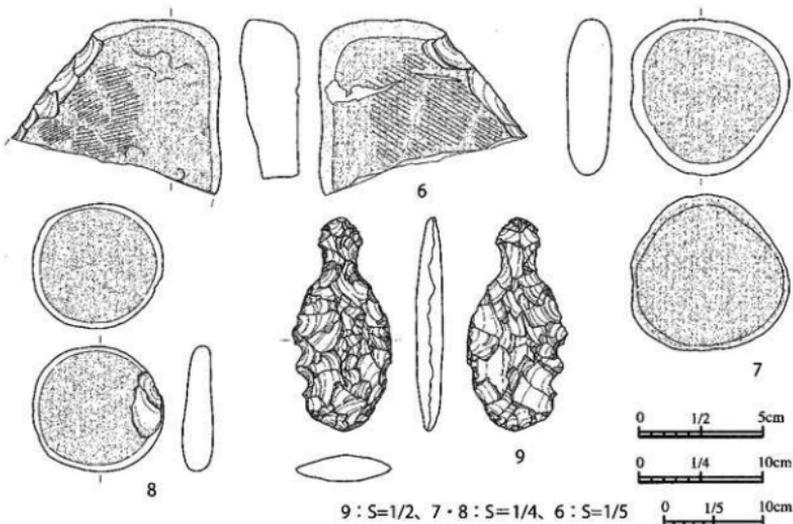


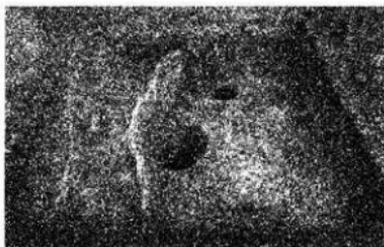
図35 史跡東半の調査出土石器

表15 史跡東半の調査出土石器観察表

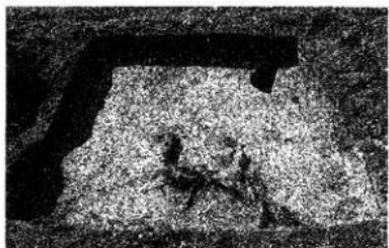
番号	種別	器形	部位・形状	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
6	石器	台石	—	TR-4トレ1号	1層	縄文	流紋岩	擦痕あり
7	石器	磨石	—	TR-5トレ	V層	縄文	安山岩	
8	石器	磨石	—	TR-7トレ	—	縄文	安山岩	
9	石器	石匙	—	TR-9トレ	IV層	縄文	黒曜石	



TR-1～4トレンチ調査地(西から)



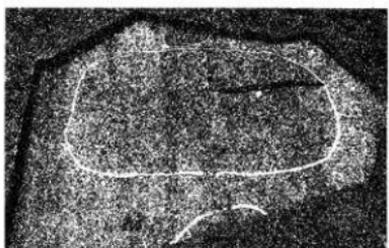
TR- 1トレンチ(西から)



TR- 2トレンチ(東から)



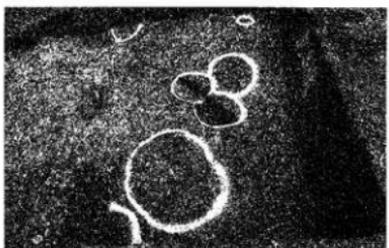
TR- 3トレンチ(南から)



TR- 4トレンチ(南西から)



TR- 5～9トレンチ調査地(北西から)



TR- 5トレンチ(東から)

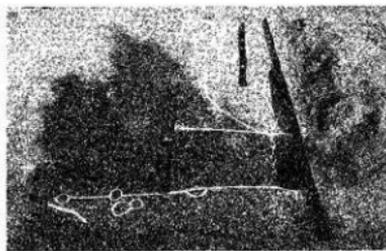


TR- 5トレンチ土器出土状況(南西から)

写真13 史跡東半の調査状況①



TR-6 トレンチ(西から)



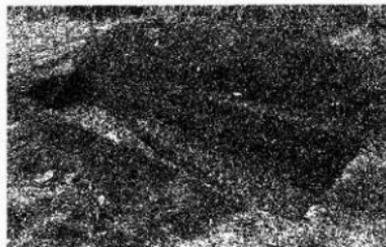
TR-7 トレンチ(南から)



TR-8 トレンチ(南から)



TR-9 トレンチ(東から)



TR-9 トレンチ土層断面(北西から)

写真14 史跡東半の調査状況②

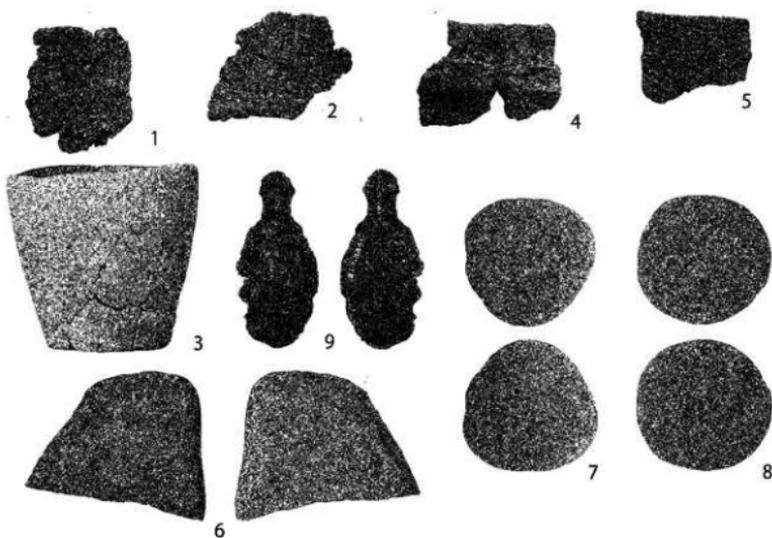


写真15 史跡東半の調査出土遺物

第5項 史跡南西の調査（平成24年度）

1. 調査概要

標高12.9～13.3mの史跡南西に2本の試掘坑を平成24年度に設定し調査を行った。そのうち、西側に位置する試掘坑をCトレンチと呼称し、東西2m×南北13m、約25㎡を調査対象とした。Cトレンチの約10m東側に位置する試掘坑はDトレンチと呼称し、東西2m×南北7m、約12㎡を調査対象とした。C・Dトレンチともに試掘坑の西壁で土層を観察し調査を行った。Cトレンチでは遺構は確認されなかったが、Dトレンチでは土坑・焼土遺構を検出した。

2. 層序

[Cトレンチ]

I層	褐灰色土	耕作土。
II層	褐灰色土	耕作土（下）。
III層	褐灰色土	灰黄褐土混入、貝粉末少量・ローム・炭化物少量。しまり弱い。
IV層	灰黄褐色土	ローム混入、炭化物中量混入。
V層	黒褐色土	炭化物・ローム中量、貝粉末少量混入。
VI層	暗褐色土	ローム・炭化物少量、貝粉末少量混入。
VII層	暗褐色土	II層土混入。

[Dトレンチ]

I層	褐灰色土	耕作土。
II層	褐灰色土	耕作土（下）。
III層	暗褐色土	ローム少量・炭化物少量・貝粉末少量混入。
IV層	暗褐色土	ローム混入、炭化物・焼土少。
V層	暗褐色土	焼土・炭化物中量・貝粉末少量混入。
VI層	にぶい黄褐色土	焼土混入、ローム・焼土多量・炭化物少量・貝粉末少量混入。
VII層	灰黄褐色土	ローム・焼土多量混入。
VIII層	暗褐色土	炭化物多量混入。
IX層	暗褐色土	炭化物混入。
X層	暗褐色土	ローム・炭化物少量混入。

3. 遺構

Dトレンチで4基の遺構を検出した。D-1号は径0.6mの円形を呈する土坑である。D-2号は東西方向に広がる焼土遺構で、幅0.3～0.4m×長さ0.5mの範囲で検出した。なお、重複する2基の遺構（D-3号及びD-4号）の性格及び規模は不明である。

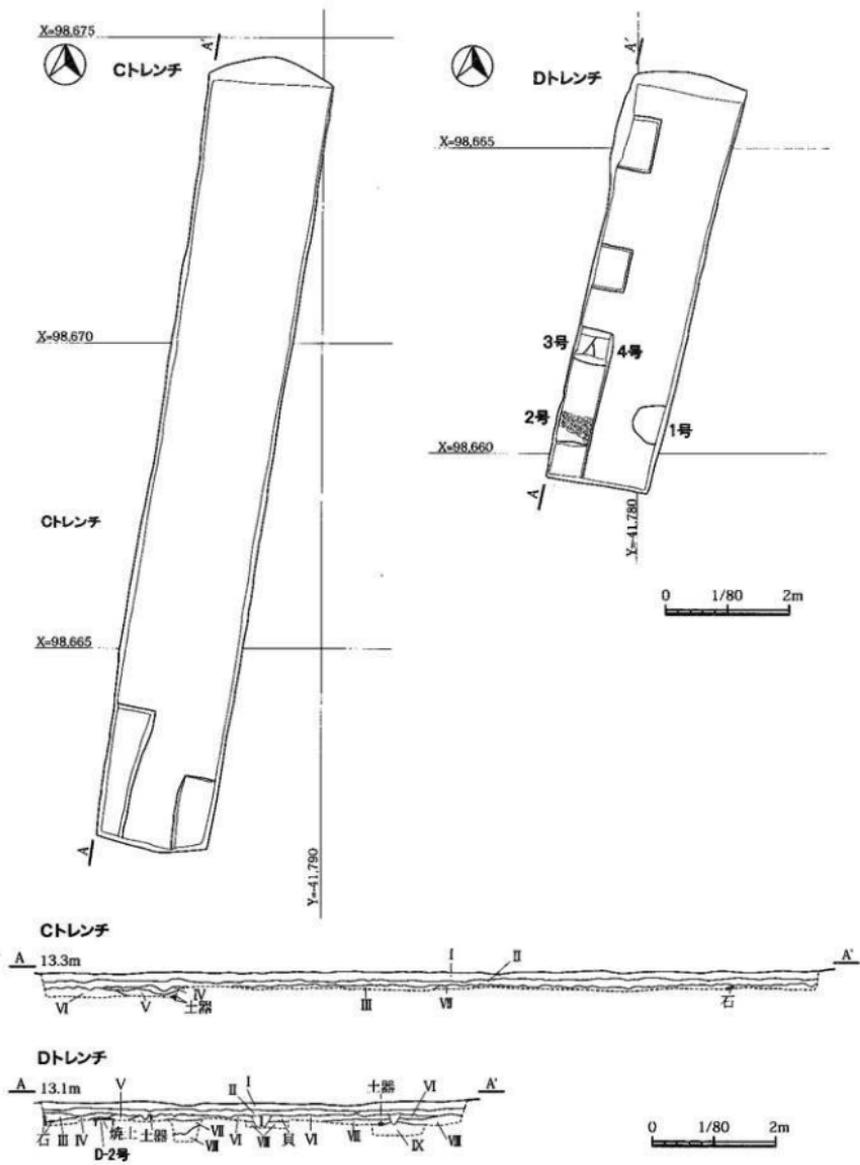


図36 C・Dトレンチ平面図・セクション

4. 遺物

図37は史跡南西側の調査で出土した土器である。

1～3はCトレンチから出土した中期後葉から後期初頭の土器の口縁部である。1の口唇部は緩い波状で、以下には地文のみが施される。2は縦位・斜位に沈線文が加わるものである。

4～7はDトレンチから出土した土器の口縁部破片である。4は円筒下層b式土器で、口縁部文様帯にX字状の沈線が入る。5～7は中期後葉の大木系の土器である。5は頸部に列点が巡り、その下には頂部付近に渦巻き状のモチーフが加わるものである。7は口縁部には横に長い楕円形に、その下には縦位に逆U字状に沈線で文様が描かれる土器である。いずれも最花式土器である。

図38は史跡南西の調査地で出土した石器である。8・9はCトレンチ出土の磨製石斧・棒状石製品、10はDトレンチ出土の石匙である。9は棒状礫の中央に一条の溝が刻まれたものであり、用途は不明である。

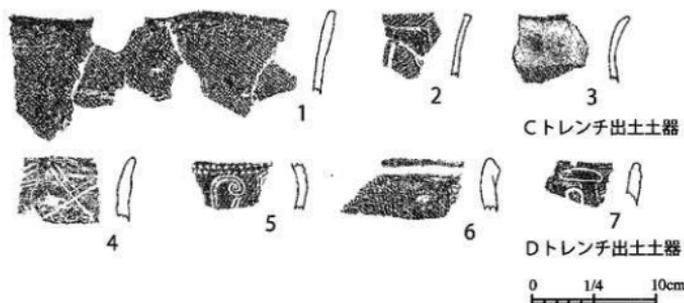
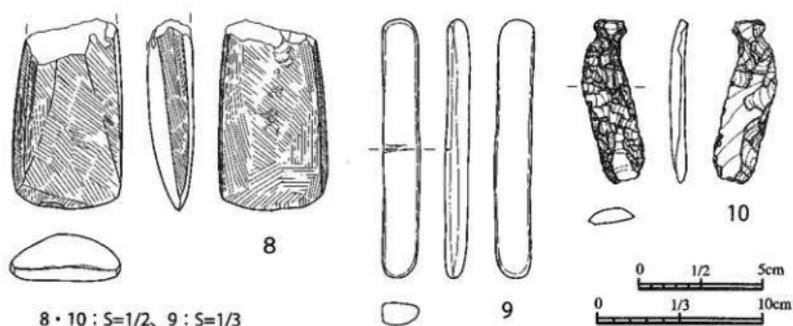


図37 史跡南西の調査出土土器

表16 史跡南西の調査出土土器観察表

番号	種別	器形	部位・形状	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢	口縁	Cトレ	I～II層	縄文中期末?		
2	縄文土器	深鉢	口縁	Cトレ	I～II層	縄文後期初頭?		
3	縄文土器	深鉢	口縁	Cトレ	II～IV層	縄文中期後葉	曇花	
4	縄文土器	深鉢	口縁	Dトレcサブトレ	V～IX層	縄文前期	円筒下層b	
5	縄文土器	深鉢	頸～胴	Dトレ	II～III層	縄文中期後葉	曇花	
6	縄文土器	深鉢	口縁	Dトレ	I～II層	縄文中期後葉	楳林	
7	縄文土器	深鉢	口縁	Dトレ	IV～VII層(真砂布付託)	縄文中期後葉?	曇花?	



8・10 : S=1/2、9 : S=1/3

図38 史跡南西の調査出土石器

表17 史跡南西の調査出土石器観察表

番号	種別	器形	部位・形状	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
8	石器	磨製石斧	—	Cトレ	I～II層	縄文	緑色片岩	
9	石製品	不明石製品	棒状	Cトレ	—	縄文	頁岩	
10	石器	石匙	縦型	Dトレサブトレ	Ⅵ～Ⅷ層	縄文	珪質頁岩	

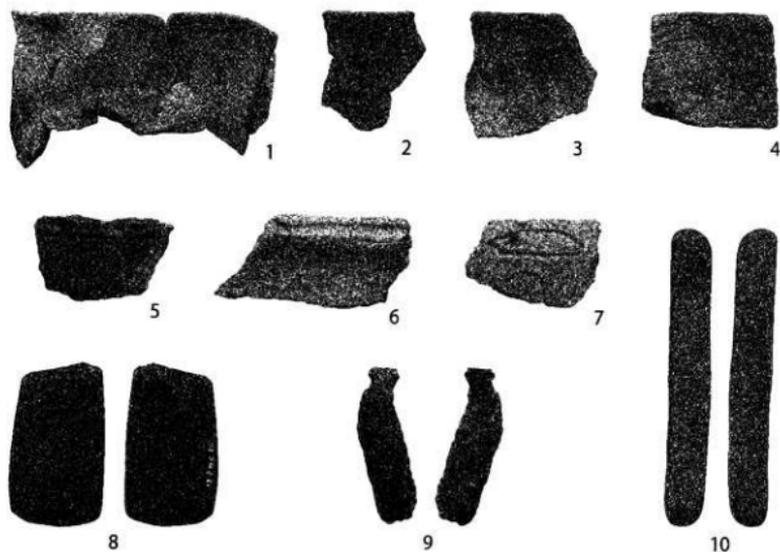


写真16 史跡南西調査出土遺物

第4節 史跡周辺の範囲内容確認調査

第1項 史跡西側隣接地の調査（平成20・25年度）

1. 調査概要

史跡の西側隣接地における地下の遺跡の状況を把握するため、平成20年度に史跡範囲西端から70m西の、標高17～18mほどの畑地に、北北西～南南東の方向に幅2m×長さ40mの試掘坑（Aトレンチ）と、その北部から東に向け幅2m×長さ10mの試掘坑（Bトレンチ）を設定して試掘調査を実施した。発見された遺構・遺物は縄文中期末葉期のものが中心である。平成26年度には遺跡西端部で地下の状況を把握するため、遺跡範囲内外に1ヶ所づつ試掘坑（TR-1・2トレンチ）を設定したが、いずれも遺構は検出されなかった。なお、A・Bトレンチの詳細については報告済みであり、併せて参照されたい（佐野2010b）。

2. 層位・地形

平成20年度調査では、現地表面から20cmほどで地山面に達するため、耕作により遺構上部が削平されており、さらにAトレンチ南部では、長字作付け用トレンチャーによって遺構や地山が掘り込まれていた。地山面での地形はAトレンチ北部の埋設土器（10号）の西側付近を頂点として、北・東・南方向に傾斜し、Aトレンチ北部～Bトレンチにかけての低い地形に対し、土器や石器とともに地山土が混入した土を廃棄した縄文中期末葉の盛土遺構（102号）が確認された。

3. 遺構

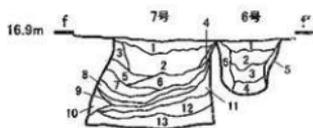
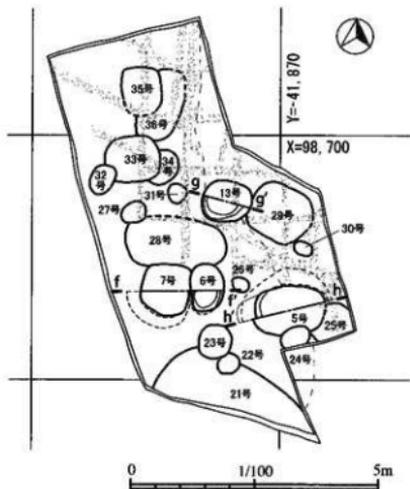
平成20年度調査で103基の遺構を検出した。うち16基を精査し、ほとんどが縄文中期末葉（大木10式並行）段階のものであった。なお、堆積土の状況や出土遺物から、未精査の他の遺構も、ほとんどが同時期に近いものと推定された。

遺構は、土坑、フラスコ状土坑、ピットが多くを占め、埋設土器が2基と、竪穴建物跡かと思われるもの（21号）も1基あった。2・5・8・12号はフラスコ状土坑である。5号の底面からは中期末葉の深鉢形土器が、8号の4層～6層上面からは、大型の深鉢形土器（図39の1・3）や石鏃等が出土した。10号は、土坑の中に大木10式並行の深鉢形土器を正立に埋設されていたが、土器口縁部付近が失われている（2）。

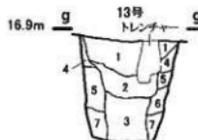
なお、3号は、覆土が新しい時代のものとみられる黒色土であった。壁面が鉄器を用いて掘削されていること、中谷治宇二郎が調査した地点（つがる市教育委員会2009）に近いと推定されることから、中谷の調査坑または近代以降の土器を狙った盗掘坑ではないかとも考えられる。

4. 遺物

土器や石器等が出土したが、そのほとんどが縄文中期末葉（大木10式並行段階）の土器であり、これに先行する門筒上層式土器や中期末葉の土器片がわずかに見られた。

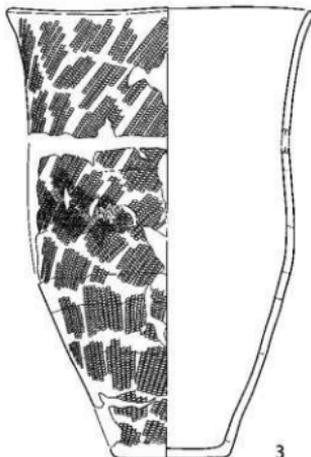
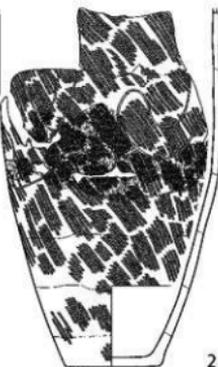
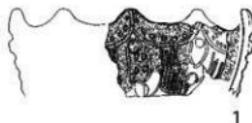
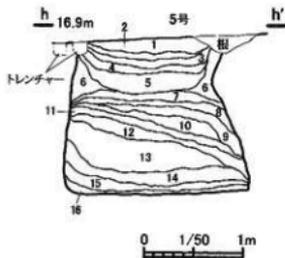


- 6号
- | | | |
|---------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物多量、砂質ローム少量 |
| 2 黒褐色粘土 | 10YR2/2 | シルト質粘土層、炭化物混入、ローム粘土多量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粘土-炭化物混入 |
| 4 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粘土-炭化物混入 |
| 5 黄褐色土 | 10YR5/8 | 炭化物少量 |
- 7号
- | | | |
|----------|-------------|-------------------------|
| 1 黒褐色土 | 10YR2-3/1 | 黄褐色砂混入、炭化物少量 |
| 2 灰黄褐色砂 | 10YR4/2 | 炭化物微量 |
| 3 灰色黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粘土混入、炭化物少量 |
| 4 黄褐色土 | 10YR5/8 | 炭化物微量 |
| 5 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム粘土-黄褐色砂混入 |
| 6 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色砂混入、ローム粘土少量、炭化物微量 |
| 7 暗褐色粘土 | 10YR3/3 | 黄褐色砂混入 |
| 8 黒褐色粘土 | 10YR2/2 | 黄褐色砂混入、ローム粘土-炭化物少量 |
| 9 灰黄褐色砂 | 10YR4/2 | 黄褐色砂混入、炭化物少量 |
| 10 褐色砂 | 10YR4/4 | |
| 11 黒褐色粘土 | 10YR2/1-2/2 | ローム粘土-黄褐色砂混入、炭化物中量、焼土少量 |
| 12 黒褐色粘土 | 7.5YR2/2 | ローム粘土混入、炭化物中量 |
| 13 黒褐色粘土 | 7.5YR2/1 | ローム粘土-粘化層混入、炭化物中量 |



- 8号
- | | | |
|-----------|-------------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/4 | 砂質ローム-炭化物少量 |
| 2 暗褐色粘土 | 10YR3/3 | 炭化物中量、黄褐色砂少量 |
| 3 暗褐色粘土 | 10YR3/4 | ローム粘土-砂質ローム-炭化物中量、焼土少量 |
| 4 暗褐色粘土 | 10YR3/3 | ローム粘土-黄褐色砂-炭化物中量、焼土少量 |
| 5 黄褐色土 | 10YR5/8 | 暗褐色土混入、炭化物少量 |
| 6 暗褐色粘土 | 10YR3/3 | ローム粘土混入、炭化物中量、焼土少量 |
| 7 黒褐色粘土 | 10YR2/2 | ローム粘土-炭化物混入、色調が1層に比べややグライセ |
| 8 黒褐色粘土 | 10YR2/2 | ローム粘土-炭化物混入 |
| 9 褐色粘土 | 7.5YR6/8 | 暗褐色土混入、炭化物少量 |
| 10 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粘土混入、炭化物少量 |
| 11 黒褐色粘土 | 10YR2/2 | ローム粘土多量、炭化物中量 |
| 12 褐色土 | 7.5YR6/8 | 暗褐色土混入、炭化物少量 |
| 13 明黄褐色砂 | 10YR6/6 | 黄褐色砂層 |
| 14 灰色黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粘土多量、炭化物少量 |
| 15 灰色黄褐色土 | 10YR4/3 | 黄褐色砂とローム粘土の互層 |
| 16 暗褐色粘土 | 10YR2/3-2/4 | ローム粘土混入、層上位に炭化物多量 |

- 10号
- | | | |
|---------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色粘土 | 10YR3/3 | ローム粘土-炭化物中量 |
| 2 黒褐色粘土 | 10YR2/3 | ローム粘土混入、炭化物多量、焼土少量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粘土混入、炭化物中量、焼土少量 |
| 4 暗褐色粘土 | 10YR3/3 | ローム粘土混入、炭化物少量 |
| 5 黒褐色粘土 | 7.5YR2/2 | ローム粘土混入、炭化物少量 |
| 6 暗褐色粘土 | 7.5YR2/3 | ローム粘土混入、炭化物少量 |
| 7 暗褐色粘土 | 10YR2/3 | ローム粘土混入、黄褐色砂-炭化物少量 |



1・3：8号出土土器、2：10号出土土器

図40 史跡西側隣接地 (Aトレンチ) 平面・セクション図、出土土器

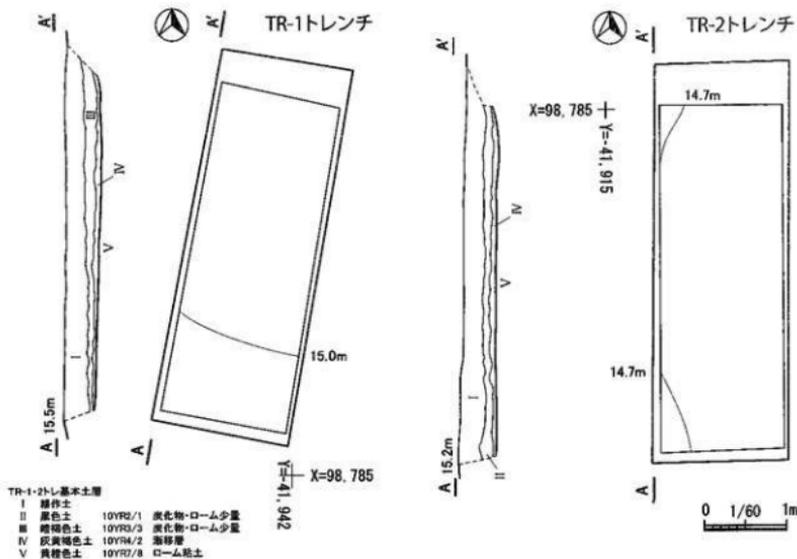


図41 史跡西側隣接地 (TR-1・2トレンチ) 平面図・セクション図

表18 史跡西側隣接地遺構一覧表

№	遺構番号	出處	種類	年代	№	遺構番号	位置	種類	年代	№	遺構番号	位置	種類	年代
1	1号	アトレ	ピット	縄文中期	36	35号	アトレ	土坑	縄文中期	71	70号	アトレ	土坑	縄文中期
2	2号	アトレ	フラスコ状土坑	縄文中期末葉	37	36号	アトレ	土坑	縄文中期	72	71号	アトレ	土坑	縄文中期
3	3号	アトレ	筒状土坑?	近代以降	38	37号	アトレ	土坑	縄文中期	73	72号	アトレ	土坑	縄文中期
4	4号	アトレ	埋戻し層	縄文中期末葉	39	38号	アトレ	ピット	縄文中期	74	73号	アトレ	ピット	縄文中期
5	5号	アトレ	フラスコ状土坑	縄文中期末葉	40	39号	アトレ	土坑	縄文中期	75	74号	アトレ	ピット	縄文中期
6	6号	アトレ	土坑	縄文中期末葉	41	40号	アトレ	ピット	縄文中期	76	75号	アトレ	ピット	縄文中期
7	7号	アトレ	フラスコ状土坑	縄文中期末葉	42	41号	アトレ	ピット	縄文中期	77	76号	アトレ	土坑	縄文中期
8	8号	アトレ	フラスコ状土坑	縄文中期末葉	43	42号	アトレ	ピット	縄文中期	78	77号	アトレ	ピット?	縄文中期
9	9号	アトレ	土坑	縄文中期末葉	44	43号	アトレ	土坑	縄文中期	79	78号	アトレ	ピット	縄文中期
10	10号	アトレ	埋戻し層	縄文中期末葉	45	44号	アトレ	土坑	縄文中期	80	79号	アトレ	ピット	縄文中期
11	11号	アトレ	土坑	縄文中期末葉	46	45号	アトレ	ピット	縄文中期	81	80号	アトレ	土坑	縄文中期
12	12号a	アトレ	フラスコ状土坑	縄文中期	47	46号	アトレ	ピット	縄文中期	82	81号	アトレ	土坑	縄文中期
13	12号b	アトレ	フラスコ状土坑	縄文中期末葉	48	47号	アトレ	土坑	縄文中期	83	82号	アトレ	土坑	縄文中期
14	13号	アトレ	土坑	縄文中期末葉	49	48号	アトレ	ピット	縄文中期	84	83号	アトレ	土坑	縄文中期
15	14号	アトレ	ピット	縄文中期末葉	50	49号	アトレ	土坑	縄文中期	85	84号	アトレ	土坑	縄文中期
16	15号	Bアトレ	土坑	縄文中期末葉	51	50号	アトレ	土坑	縄文中期	86	85号	アトレ	ピット	縄文中期
17	16号	アトレ	土坑	縄文中期	52	51号	アトレ	土坑	縄文中期	87	86号	アトレ	ピット?	縄文中期
18	17号	アトレ	ピット	縄文中期	53	52号	アトレ	土坑?	縄文中期	88	87号	アトレ	土坑	縄文中期
19	18号	アトレ	ピット	縄文中期	54	53号	アトレ	ピット	縄文中期	89	88号	アトレ	ピット	縄文中期
20	19号	アトレ	土坑	縄文中期	55	54号	アトレ	ピット	縄文中期	90	89号	アトレ	ピット	縄文中期
21	20号	アトレ	土坑	縄文中期	56	55号	アトレ	土坑	縄文中期	91	90号	アトレ	土坑	縄文中期
22	21号	アトレ	穴状埋物跡?	縄文中期	57	56号	アトレ	ピット?	縄文中期	92	91号	アトレ	土坑	縄文中期
23	22号	アトレ	土坑	縄文中期	58	57号	アトレ	土坑	縄文中期	93	92号	アトレ	土坑	縄文中期
24	23号	アトレ	土坑	縄文中期	59	58号	アトレ	土坑	縄文中期	94	93号	アトレ	土坑	縄文中期
25	24号	アトレ	土坑	縄文中期	60	59号	アトレ	土坑	縄文中期	95	94号	アトレ	土坑	縄文中期
26	25号	アトレ	土坑	縄文中期	61	60号	アトレ	土坑	縄文中期	96	95号	アトレ	土坑	縄文中期
27	26号	アトレ	ピット	縄文中期	62	61号	アトレ	土坑	縄文中期	97	96号	アトレ	ピット	縄文中期
28	27号	アトレ	土坑	縄文中期	63	62号	アトレ	土坑	縄文中期	98	97号	アトレ	ピット	縄文中期
29	28号	アトレ	土坑	縄文中期	64	63号	アトレ	土坑	縄文中期	99	98号	アトレ	ピット	縄文中期
30	29号	アトレ	土坑	縄文中期	65	64号	アトレ	土坑	縄文中期	100	99号	アトレ	土坑	縄文中期
31	30号	アトレ	ピット	縄文中期	66	65号	アトレ	土坑	縄文中期	101	100号	アトレ	土坑?	縄文中期
32	31号	アトレ	ピット	縄文中期	67	66号	アトレ	土坑	縄文中期	102	101号	アトレ	ピット?	縄文中期
33	32号	アトレ	土坑	縄文中期	68	67号	アトレ	土坑	縄文中期	103	102号	A-Bアトレ	土坑	縄文中期末葉
34	33号	アトレ	土坑	縄文中期	69	68号	アトレ	土坑	縄文中期					
35	34号	アトレ	土坑	縄文中期	70	69号	アトレ	土坑	縄文中期					



調査地点〈木造館岡田小屋野 59-32〉(南東から)



Aトレ北部遺構分布状況(南から)



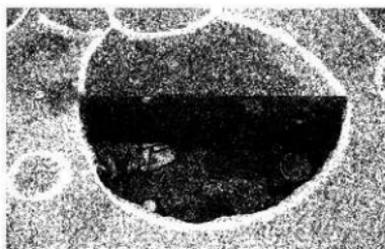
Aトレ南部遺構分布状況(北から)



盛土遺構〈102号〉土層断面〈Bトレ内〉(南西から)



10号〈埋設土器〉土層断面(北東から)



8号 遺物出土状況(東から)



1



2



3



4



5



6

写真17 史跡西側隣接地調査状況および出土遺物(平成20年度)

第2項 史跡南西側隣接地の調査（平成24年度）

1. 調査概要

標高12.5～13.1mの史跡南西側隣接地に4本の試掘坑を平成24年度に設定した。東西方向の試掘坑は南からEトレンチ、Hトレンチ、南北方向の試掘坑は西からFトレンチ、Gトレンチと呼称した。それぞれの試掘坑は幅0.3～0.5m、長さ10～20mで掘削し、合計約20㎡を調査対象とした。東西方向の試掘坑は北壁、南北方向の試掘坑は東壁で土層を観察し調査を行った。また、骨貝類や炭化材のサンプルを適宜採取し、位置を記録した。貝層の分布範囲のほか、Hトレンチで土坑（H-1号）、Eトレンチで竪穴建物跡（E-1号）を確認した。

2. 層序

- I層 黒褐色～暗褐色土 表土層。E区西拡張トレンチの西半以外は貝が混じる。
- II層 暗褐色土 ローム粘土・貝混入、炭化物少量混入。F区南トレンチではロームブロック層。カクランか？
- III層 暗褐色土 貝少量混入、ローム・炭化物少量混入。上部貝層。E区西拡張トレンチ・郷土館調査地点ではローム混入。カクランか？
- IV層 暗褐色土 ローム・焼土・炭化物混入。
- V層 黒褐色土 混貝層。炭化物少量混入。F区北側では灰混入。H区西側では砂混入。
- V-2層 黒褐色土 混貝層。焼土・炭化物混入。V層より貝が密集する。H区の東端では焼土・炭化物はほとんどない。
- V-3層 黒褐色土 混貝層。
- VI層 浅黄橙色土 灰層。焼土・炭化物・貝混入。
- VI-2層 黒褐色土 炭・焼土・炭化物層。黒褐色土内に5mm程度の厚さで上から灰・焼土・炭化物の順に堆積する。
- VII層 黒褐色土 ローム混入、炭化物中量混入。
- VIII層 黒褐色土 貝層（下）。ローム・炭化物多量混入。
- IX層 暗褐色土 ローム・黄褐砂混入、炭化物多量混入。円筒下層式土器混入。
- X層 黒褐色土 ローム多量・炭化物少量混入。
- XI層 黒褐色土 炭化物少量。上部は貝が少量混ざる。
- XII層 におい黄褐色土 漸移層。
- XIII層 橙色土 ローム粘土。地山。

3. 遺構

2基の遺構を検出した。Eトレンチ西端のI層直下で確認した土坑（E-1号）は径0.55mの円形を呈する。覆土中に円筒下層式土器が混入することから同時期頃の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。またHトレンチ西端のX層上面で竪穴建物跡（H-1号）の西端を確認した。東端と南端は検出層位まで掘削していないため未検出であり、平面規模は不明である。H-1号からは円筒下層a・b式及びd₁式の土器が出土していることから、縄文時代前期末葉以前の竪穴建物跡と考えられる。

E～Hトレンチでは、東西約16m×南北約10mにわたって混貝層（V・V-2・V-3層、VIII層、XI

層)が認められたことから、史跡南西側隣接地においても貝層が分布することが判明した。混貝層からは円筒下層a～b式、d₁式の上器が出土しており、同時期頃に形成された堆積層とみられる。なお、混貝層からは獣類・魚類等の動物遺存体が出土している(第4章参照)。

4. 遺物

図45は史跡南西側隣接地の調査で出土した土器をトレンチごとに示した。

1はEトレンチから出土した土器片である。波頂部に渦巻き状沈線を施文した榎林式の口縁部である。2～6はFトレンチから出土した土器で、2は上半が復元でき、口縁部から頸部隆帯下まで結節回転文が施される。3は地文のみの口縁部である。7～9はGトレンチ北側からHトレンチ東側にかけて出土した土器片である。7は円筒下層d₁式、8・9は円筒下層a・b式の口縁部片である。

10～17はHトレンチから出土した土器である。10は頸部の上面に刺突が加わる隆帯がつく。11は口縁部から頸部隆帯下まで結節回転文が施された土器で、10・11とも円筒下層b₁式土器である。15は円筒上層a式の口縁部片である。

図46は史跡南西側隣接地から出土した石器等である。石鏃・石匙・筭状石器・半円状扁平打製石器・磨石・石錘等が出土した。23はHトレンチ表層より出土したベンケイ貝の破片である。

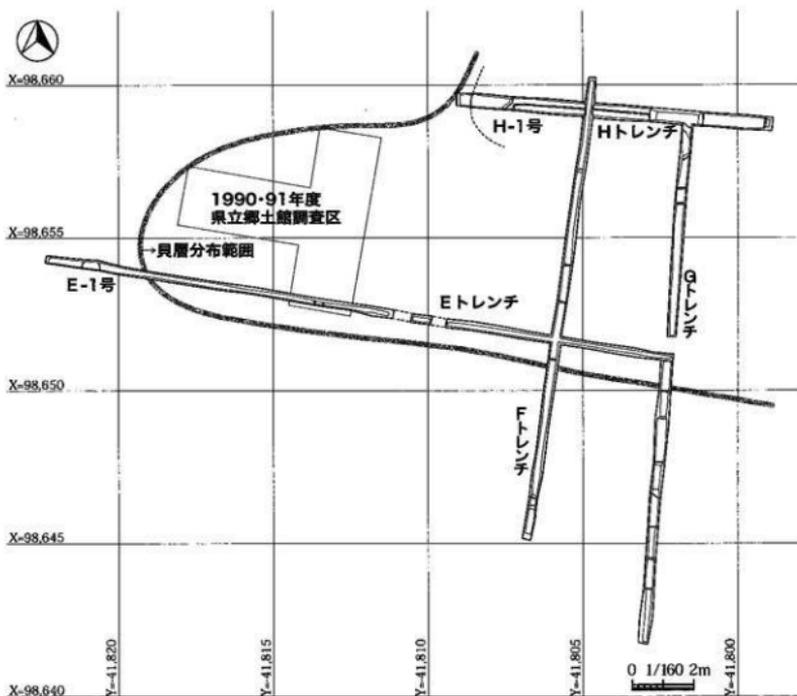


図42 E～Hトレンチ平面図

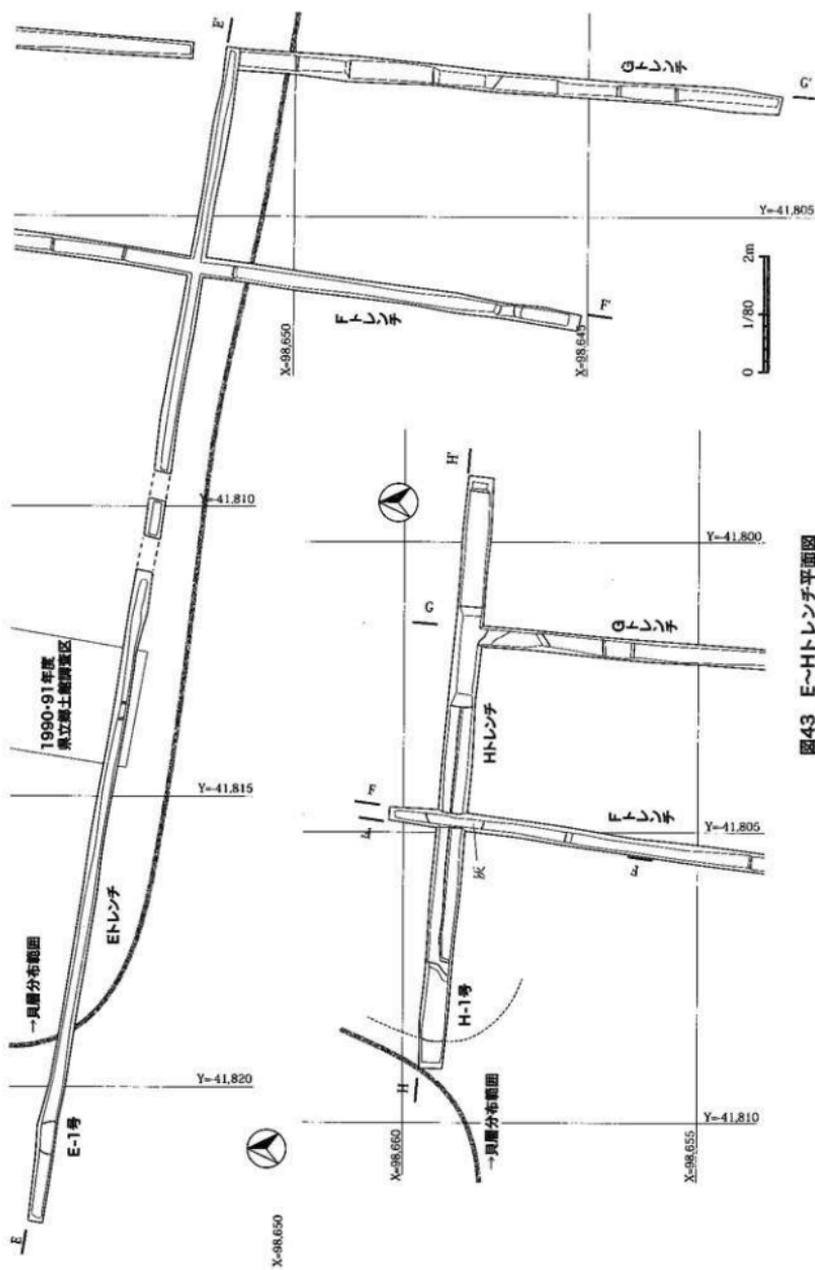


図43 E~Hトレンチ平面図

Eトレンチ北壁

12.8m



E-1号

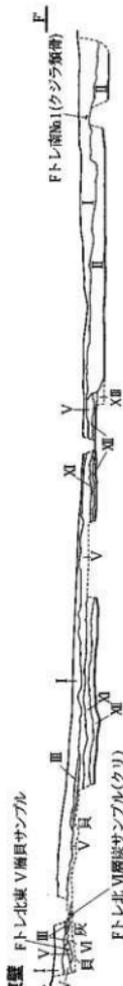
1 明褐色土 10YR3/3 ローム・炭化物混、円筒下層式土器遺入

E-1号

1 黒褐色土 10YR2/3 混風腐、ローム混、炭化物少

Fトレンチ東壁

13.2m



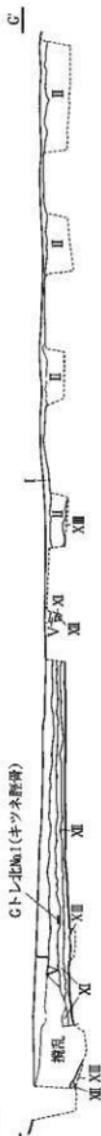
Fトレンチ西壁

13.2m



Gトレンチ東壁

13.1m



Hトレンチ北壁

13.1m

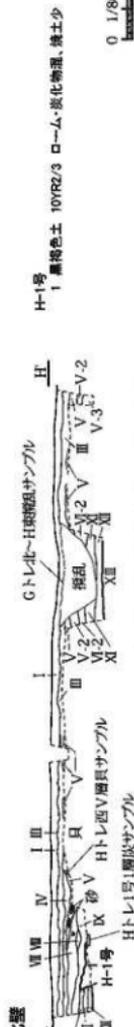


図44 E~Hトレンチセクション図

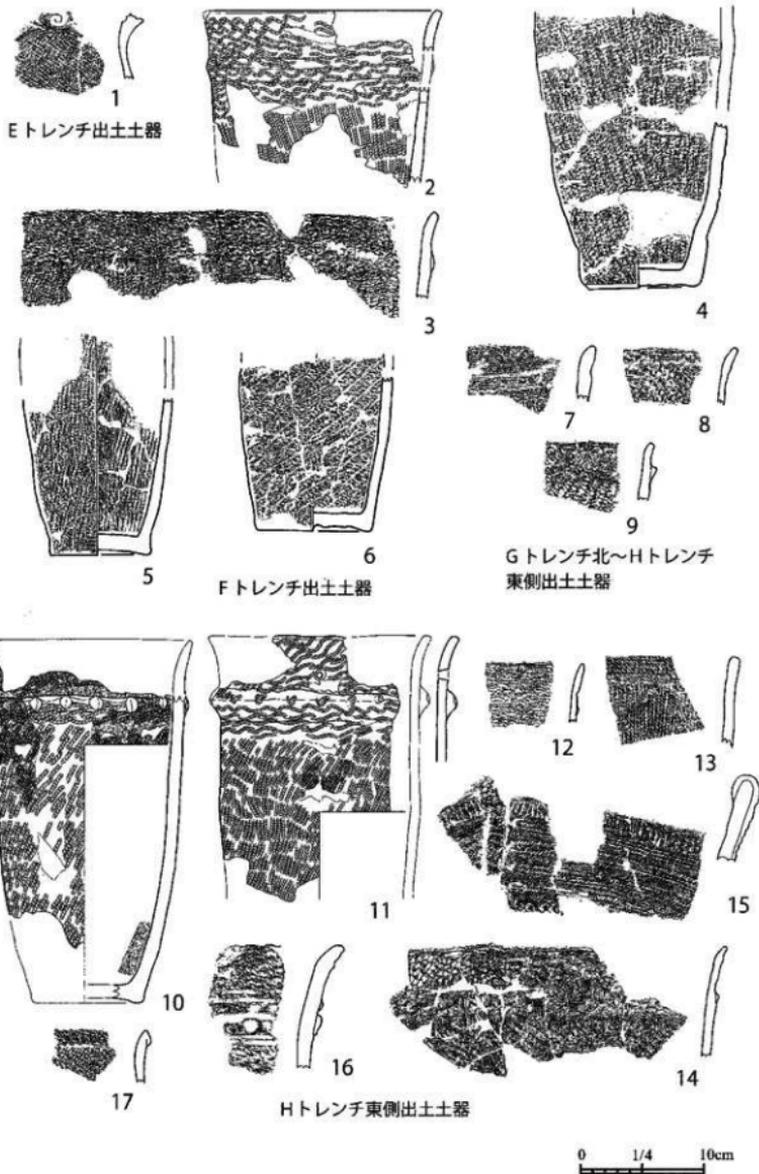


図45 史跡南西側隣接地出土土器

表19 史跡南西側隣接地出土土器観察表

番号	種別	器形	部位・形状	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢	口縁	Eトレ西端	暗褐色層(混貝層)	縄文中期後葉	椀林	
2	縄文土器	深鉢	口縁	Fトレ北①(北端)	V-VI層	縄文前期	円筒下層b	
3	縄文土器	深鉢	口縁	Fトレ北①(北端)	V-VI層	縄文前期	円筒下層b	
4	縄文土器	深鉢	胴部～底部	Fトレ北①(北端)	V-VI層	縄文前期	円筒下層b	
5	縄文土器	深鉢	胴部～底部	Fトレ北①(北端)	V-VI層	縄文前期	円筒下層b	
6	縄文土器	深鉢	胴部～底部	Fトレ北①(北端)	V-VI層	縄文前期	円筒下層aかb	
7	縄文土器	深鉢	口縁	Gトレ北①	V層	縄文前期末	円筒下層d1	
8	縄文土器	深鉢	口縁	Gトレ北～Hトレ東	カクラン	縄文前期	円筒下層a～b	
9	縄文土器	深鉢	口縁	Gトレ北～Hトレ東	カクラン	縄文前期	円筒下層a～b	
10	縄文土器	深鉢	口縁	H-1号	1層	縄文前期	円筒下層a～b	
11	縄文土器	深鉢	口縁	H-1号	1層	縄文前期	円筒下層a～b	
12	縄文土器	深鉢	口縁	Hトレ1号西側	D区層	縄文前期	円筒下層a～b	
13	縄文土器	深鉢	口縁	H-1号	1層	縄文前期末	円筒下層d1	
14	縄文土器	深鉢	口縁	H-1号	1層	縄文前期	円筒下層a～b	
15	縄文土器	深鉢	口縁	Hトレ	I～III層	縄文中期	円筒上層a	
16	縄文土器	深鉢	口縁	Hトレ西(東半)	V層	縄文前期	円筒下層a～b	
17	縄文土器	深鉢	口縁	H-1号西側	D区層	縄文中期	円筒上層	

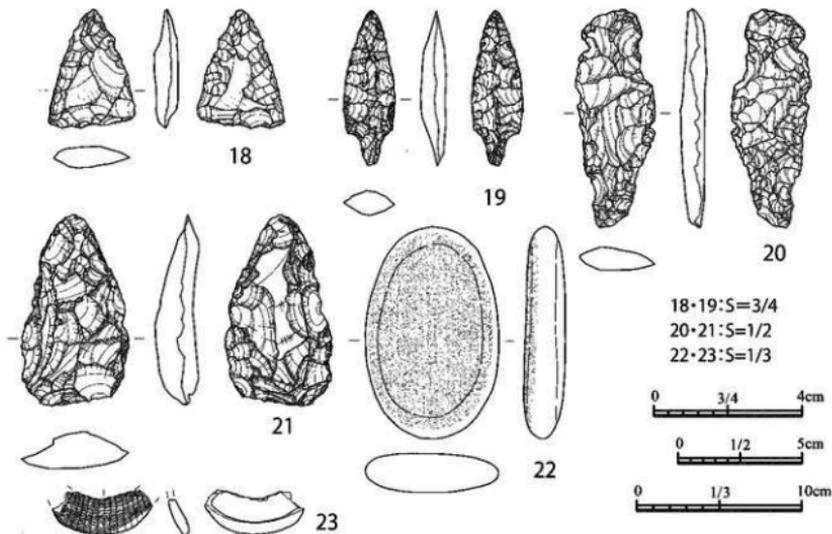


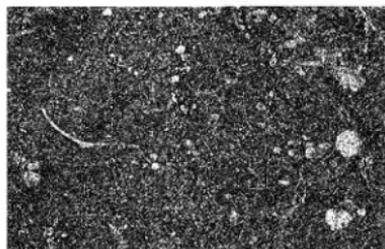
図46 史跡南西側隣接地出土石器ほか

表20 史跡南西側隣接地出土石器ほか観察表

番号	種別	器形	部位・形状	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
18	石器	石鏃	-	Eトレ西	I層下位	縄文	珪質頁岩	
19	石器	石鏃	-	Fトレ南	混貝層～ローム混層	縄文	珪質頁岩	
20	石器	石鏃	縦型	Eトレ	V層(西半)	縄文	珪質頁岩	
21	石器	鹿状石器	-	Fトレ北2～3サブトレ付近	V層	縄文	珪質頁岩	
22	石器	磨石	-	Fトレ北①(北端)	V-VI層	縄文	安山岩	
23	ペンケイ具	-	-	Hトレ中	I層	縄文	-	



史跡南西側隣接地調査地点（北東から）



史跡南西側隣接地表面貝散布状況



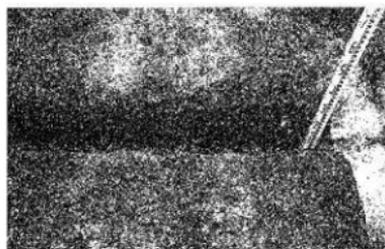
史跡南西側隣接地調査区全景（北東から）



史跡南西側隣接地調査区（南東から）



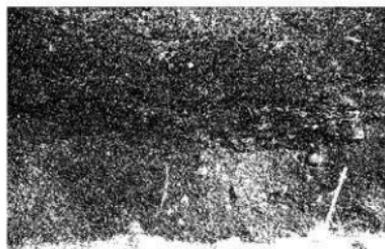
F・Gトレンチ（北から）



Eトレンチ土層断面（南から）



Fトレンチ土層断面（西から）



Fトレンチ貝層断面（西から）

写真18 史跡南西側隣接地の調査状況①



HトレンチV層（混貝層）検出状況（南から）



HトレンチV-2層（混貝層）断面（南東から）

写真19 史跡南西側隣接地の調査状況②

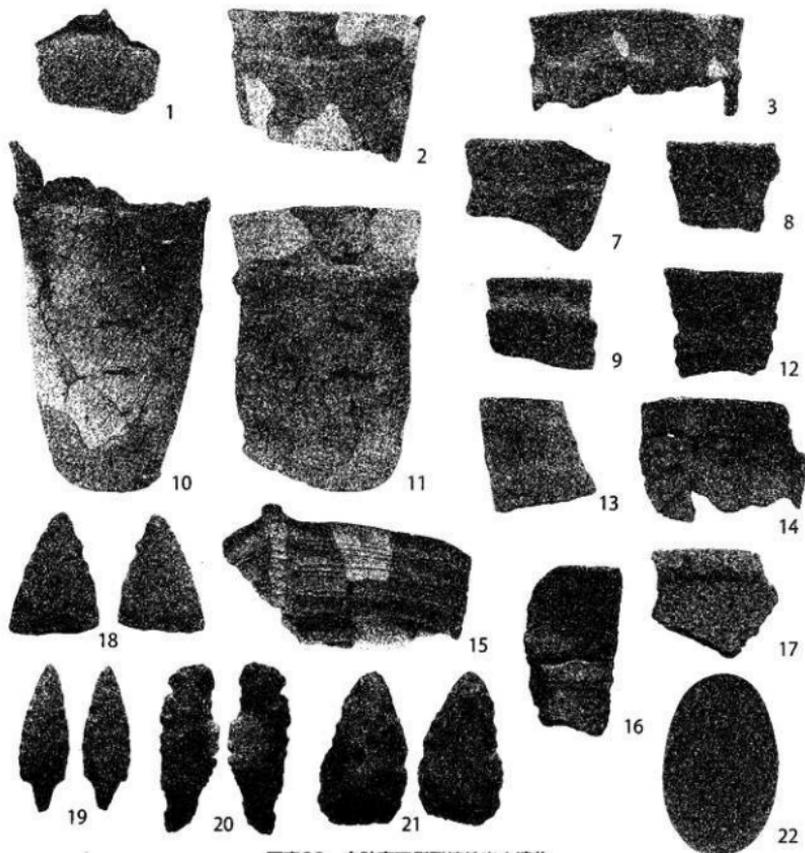


写真20 史跡南西側隣接地出土遺物

第3項 史跡北西側隣接地の調査（平成21年度）

1. 概要

史跡範囲北隣地区における地下の遺跡の状況を確認するため、畑地に3地点5ヶ所の試掘坑を設定した。Aトレンチは、標高15m弱の史跡範囲北隣の畑地に、南北方向に3ヶ所（Aトレンチ1～3区）の試掘坑を設定した。Bトレンチは、標高16m程度の史跡範囲北西辺から15mほど北に、Cトレンチは標高15m程度の史跡範囲北西辺の北隣に設定した。なお、本調査は報告済であり、併せて参照されたい（佐野2010b）。

2. 層位・地形

地形的にはBトレンチ付近が史跡地周辺の尾根の頂部(標高16m強)で、ここから四方に緩やかに傾斜する。Cトレンチは南に下る緩斜面上に位置する。Aトレンチの平坦な畑地では、1mほどの近年の盛り土が確認されたが、旧地表面から地山面までの深さは50cm程度、遺構確認面までは30cm程度である。Aトレンチ付近は本来、南西方向から北東方向に向け標高を減じてゆく地形である。

3. 遺構と遺物

47基の遺構を検出した。一部を掘削して遺構底面まで確認したのもあるが、大半はプラン確認にとどめた。縄文時代前期末葉～中期の円筒土器文化期の遺構が主体である。

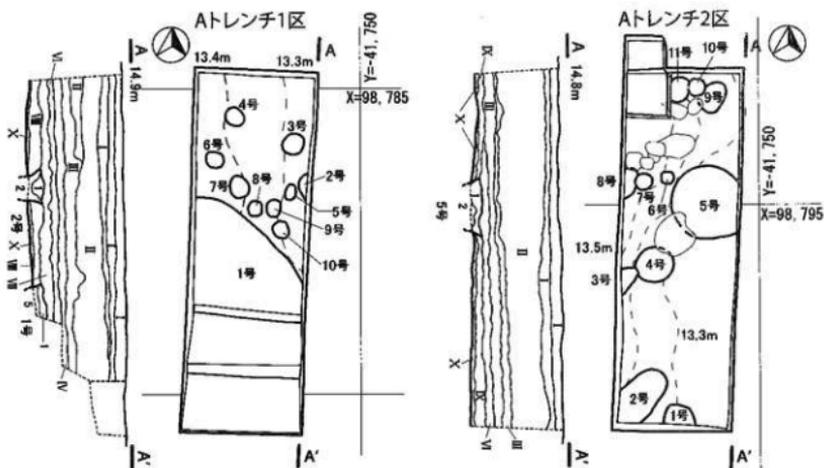
縄文時代の遺構は、土坑・ピットが多いが、円筒土器文化期の竪穴建物跡が3棟確認された。Aトレンチ1区1号は、出土遺物や掘り込み面から、縄文前期末葉の建物跡と考えられ、周囲に位置するピットや土坑もこれに関連する施設と推定される。また、Cトレンチ1号も、中期初頭～前葉の竪穴建物跡の一部と推定される。なお、Bトレンチ3号は、東半を1号に切られているが、堆積土や床面の状況等から、東西方向に長軸4m弱の中期中葉の竪穴建物跡と推定される。

南西方向から北東方向に向け低くなる緩斜面上のAトレンチ2～3区で、縄文時代中期の土坑・ピットが分布する。円筒土器文化期の遺構は北側斜面部分まで広がる事が確認された。また、Cトレンチには円筒土器文化期～中期末葉の土坑・ピットが確認された。

B・Cトレンチからは平安時代の遺構も少数確認されている。平安時代の溝跡と判明したBトレンチ1号に囲まれた平安時代の集落、あるいは館跡等が存在する可能性が窺えた。

表21 史跡北西側隣接地遺構一覧表

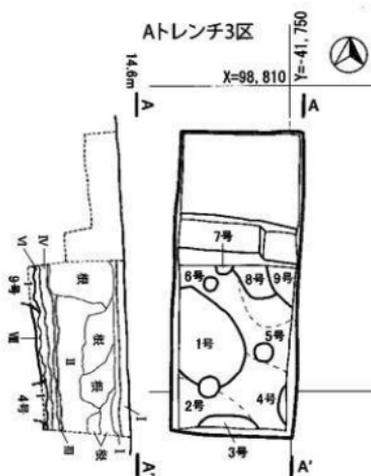
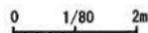
№	遺構番号	種類	年代	№	遺構番号	種類	年代	№	遺構番号	種類	年代
1	Aトレンチ 1号	竪穴建物跡	縄文前期末葉	17	Aトレンチ 7号	ピット	縄文中期?	33	Bトレンチ 9号	ピット	縄文?
2	Aトレンチ 2号	土坑	縄文前期末葉	18	Aトレンチ 8号	土坑	縄文中期	34	Bトレンチ 11号	ピット	縄文?
3	Aトレンチ 3号	ピット	縄文前期末葉?	19	Aトレンチ 9号	土坑	縄文中期	35	Bトレンチ 12号	ピット	縄文?
4	Aトレンチ 4号	ピット	縄文前期末葉?	20	Aトレンチ 10号	土坑	縄文中期	36	Bトレンチ 13号	土坑	縄文?
5	Aトレンチ 5号	ピット	縄文前期末葉?	21	Aトレンチ 11号	ピット	縄文中期?	37	Cトレンチ 1号	竪穴建物跡?	縄文中期初頭～前葉
6	Aトレンチ 6号	ピット	縄文前期末葉?	22	Aトレンチ 1号	土坑	縄文中期	38	Cトレンチ 2号	土坑	縄文中期後葉～末葉
7	Aトレンチ 7号	ピット	縄文前期末葉?	23	Aトレンチ 2号	ピット	縄文中期?	39	Cトレンチ 3号	土坑	縄文中期初頭～後葉
8	Aトレンチ 8号	ピット	縄文前期末葉?	24	Aトレンチ 3号	土坑	縄文中期	40	Cトレンチ 4号	土坑	縄文中期初頭～後葉
9	Aトレンチ 9号	ピット	縄文前期末葉?	25	Aトレンチ 4号	土坑	縄文中期	41	Cトレンチ 5号	土坑	縄文中期初頭～前葉
10	Aトレンチ 10号	ピット	縄文前期末葉?	26	Aトレンチ 5号	ピット	縄文中期?	42	Cトレンチ 6号	土坑	縄文中期後葉～末葉
11	Aトレンチ 1号	土坑	縄文中期	27	Aトレンチ 6号	ピット	縄文中期?	43	Cトレンチ 7号	土坑	縄文中期後葉～末葉
12	Aトレンチ 2号	土坑	縄文中期	28	Aトレンチ 7号	ピット	縄文中期	44	Cトレンチ 8号	ピット	縄文中期初頭～前葉
13	Aトレンチ 3号	土坑	縄文中期	29	Aトレンチ 8号	土坑	縄文中期	45	Cトレンチ 9号	ピット	縄文中期後葉～末葉
14	Aトレンチ 4号	土坑	縄文中期?	30	Aトレンチ 9号	土坑	縄文中期	46	Cトレンチ 10号	ピット?	平安?
15	Aトレンチ 5号	土坑	縄文中期	31	Bトレンチ 1号	溝跡	平安	47	Cトレンチ 11号	土坑?	平安?
16	Aトレンチ 6号	ピット	縄文中期?	32	Bトレンチ 3号	竪穴建物跡?	縄文中期中葉				



- AT-1区1号
1 暗褐色土 10YR3/4 ローム粘土多量、炭化物中量
2 暗褐色土 10YR2/3 ローム粘土多量、炭化物中量
3 黒褐色粘土 10YR3/2 ローム粘土多量、炭化物中量
4 黒褐色粘土 10YR2/3 ローム粘土多量、炭化物少量
5 黒褐色-暗褐色粘土 10YR2/3-3/3 ローム粘土多量、炭化物少量

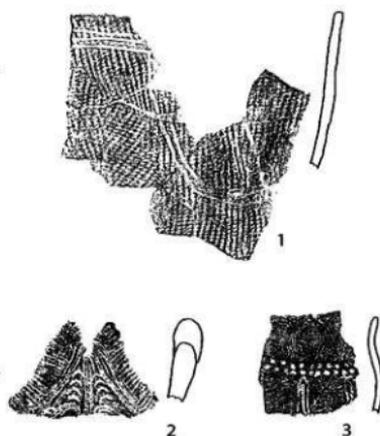
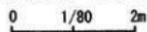
- AT-2区5号
1 黒褐色土 10YR2/3-3/2 ローム粘土・炭化物少量
2 黒褐色粘土 10YR2/2 ローム粘土ブロック多量、炭化物少量

- AT-1区2号
1 暗褐色土 10YR2/4-3/3 ローム粘土母材土混入、炭化物少量
2 黒褐色土 10YR2/2 ローム粘土・炭化物少量



- AT-3区4号
1 黒褐色土 10YR2/3-3/2 ローム粘土中量、炭化物少量

- AT-3区9号
1 黒褐色土 10YR2/3-3/2 強土・炭化物・ローム粘土少量



- 1・2 : AT-1区出土土器
3 : AT-2区出土土器

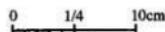
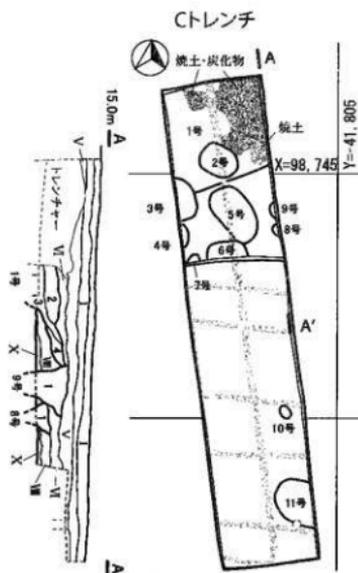
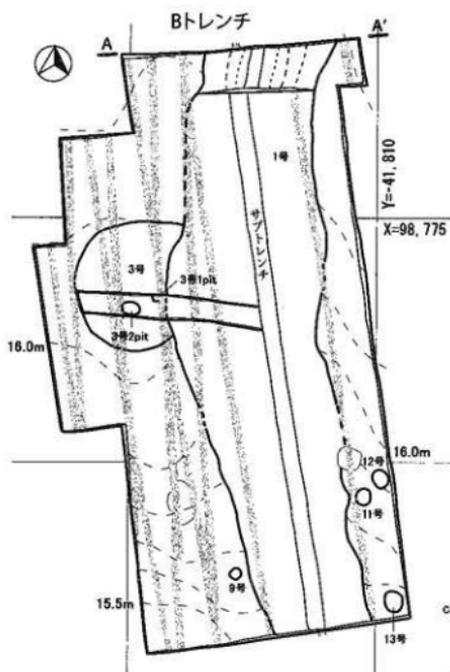


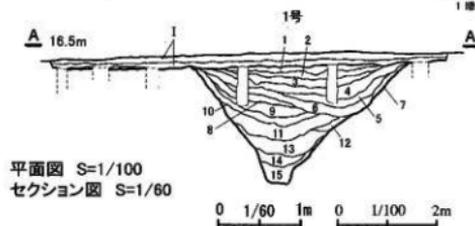
図47 史跡北西側隣接地 (ATレンチ1~3区) 平面・セクション図、出土遺物



- CH-1号
- 1 暗褐色土 10YR2/3 ローム粘土・炭化物多量
 - 2 暗褐色土 10YR2/4 ローム粘土・炭化物多量
 - 3 黄褐色粘土 10YR2/3 ローム粘土・炭化物多量
 - 4 褐色粘土 10YR4/6 ローム粘土・炭化物多量、炭化物少量

- CH-8号
- 1 黄褐色粘土 10YR2/3 ローム粘土・炭化物多量

- CH-9号
- 1 暗褐色粘土 10YR2/4 ローム粘土・炭化物多量、黄土中量、炭化物少量



平面図 S=1/100
セクション図 S=1/60

- BT-1号
- 1 黄褐色土 10YR2/2 明褐色土混入、ローム粘土中量、黄褐色砂、炭化物少量
 - 2 棕色・黄褐色土 10YR4/3 黄褐色土混入、ローム粘土・黄褐色砂・炭化物少量
 - 3 黄褐色土 10YR2/1~3/2 暗褐色土混入、ローム粘土中量、黄褐色砂・炭化物少量
 - 4 暗褐色土 10YR2/4 ローム粘土中量、炭化物少量
 - 5 暗褐色土 10YR2/3 ローム粘土多量、炭化物少量
 - 6 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粘土・炭化物中量、炭化物中量、黄土少量
 - 7 明褐色粘土 7.5YR5/8 ローム粘土混層
 - 8 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粘土混層、炭化物少量
 - 9 暗褐色土 10YR2/4 ローム粘土混層、炭化物少量
 - 10 暗褐色土 10YR2/3 ローム粘土中量、炭化物少量
 - 11 黄褐色土 10YR2/2 暗褐色土混入、ローム粘土多量、炭化物中量、黄褐色砂少量
 - 12 明褐色粘土 7.5YR5/8 ローム粘土混層
 - 13 黄褐色土 10YR2/2 ローム粘土混入、黄褐色砂・炭化物少量
 - 14 黄褐色土 10YR2/1 砂まじりローム粘土・黄褐色砂混入、炭化物中量
 - 15 暗褐色土 10YR2/4 ローム粘土・黄褐色砂混入



4・5 : CH-1号出土土器

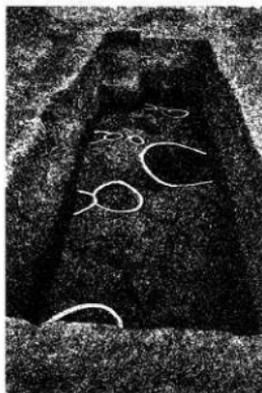
図48 史跡北西側隣接地 (B・Cトレンチ) 平面・セクション図、出土遺物



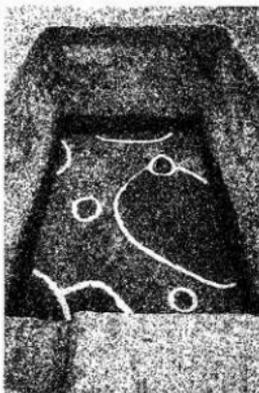
Aトレ調査地点(木造館岡小屋野 48-22) (西から)



Aトレ1区 (北から)



Aトレ2区 (南から)



Aトレ3区 (北から)



Cトレ全景 (北から)



Bトレ (南から)

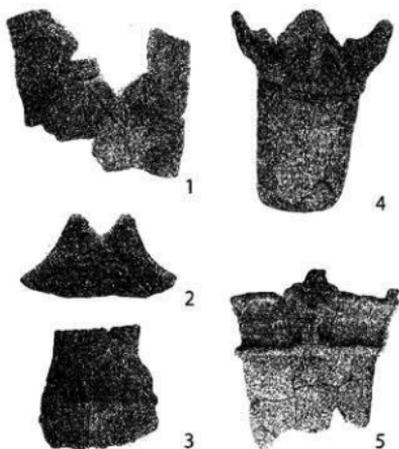


写真21 史跡北西側隣接地調査状況
および出土遺物

第4項 史跡北東側隣接地の調査（平成23・26・27年度の調査）

1. 平成23年度の調査

(1) 調査概要

上下水道敷設計画に伴い、計画地である市道田小屋野上沢辺線などの道路及び、配管される宅地周辺に試験坑を設定し試験調査を実施した。事業計画地の道路に5ヶ所（Tr-1～5トレンチ）、宅地周辺の畑地に5ヶ所（Tr-6～10トレンチ）の計110㎡を調査した。なお、本調査についてはすでに報告済みであり、併せて参照されたい（佐野2012）。

(2) 層序

I層：道路舗装（Ia層）、道路碎石（Ib層）、攪乱・耕作土・埋土（Ic層）に細分。

II層：褐色土。

III層：暗褐色から黒褐色土。縄文前～中期の円筒土器文化期の遺物包含層。

IV層：地山と上部層との漸移層。

V層：粘土質ローム層（地山）。

(3) 遺構

Tr-5・6トレンチ以外から22基確認した。発見された遺構は、Tr-7トレンチ1～4号、Tr-10トレンチ2号以外は全て円筒土器文化期のものと判断された。円筒土器文化期の堅穴建物跡は5棟確認され、平成21年度の調査と合わせ、史跡の北側にも遺構が連続することが明らかになった。

調査の結果、周辺には住宅やビニールハウスが建っているが、その基礎は浅く、地下遺構や遺物は良好な状態で遺存しているものと考えられる。

(4) 遺物

円筒下層式土器など縄文前期～中期の土器、平安時代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼の罌鉢（珠洲IV期）の破片などコンテナ1箱分が出土した（図49）。

2. 平成26・27年度の調査

(1) 調査概要

史跡の北東側隣接地における地下の遺跡の状況を把握するため、標高12mほどの畑地に平成26年度に10ヶ所（T-1～T-7トレンチ、Tr-1～Tr-3トレンチ）、平成27年度に1ヶ所の試験坑を設定した。調査面積は平成26年度が計65㎡、平成27年度が計12㎡である。発見された遺構・遺物の時期は、縄文前期中葉～中期にかけてのものが中心だが、縄文晩期や平安時代のものも確認された。

(2) 層序

I層：灰黄褐色土。耕作土（現耕作土）。

II層：灰黄褐色土。耕作土（床土）。

III層：灰黄褐色土。耕作土（下層をまきあげた層）。炭化物・焼土混入。